

2016年度活動報告

<事業の概要>

2016年度は、2017年度からの本格運用の準備期間として位置付け、以下のとおり各種準備に着手した。

新学年暦への対応準備

～ターム制に対応するカリキュラム変更～

2017年度より導入予定の4ターム制(9週+6週+9週+9週)に対応するためのカリキュラム変更を行った。



ギャップタームの一部となる第2タームには必修科目を開講しないこととあわせ、ボランティア関連講座など学外学修に代わる実験的な科目や専門科目を骨格とした教養的講座、資格試験の準備講座、教養としての第三外国語・地域研究科目等を設置することを決定し、諸般の理由により学外学修活動を行えない学生も、専門学修に対して多面的にアプローチできる環境を整えることとした。

学生への周知

～学外学修フェア・説明会を開催～

新学年暦に関する説明会および学外学修フェアを開催し、翌年度のギャップターム活用法や参加できるサマープログラムやインターンシップ、ボランティア活動を紹介した。

2016年度の具体的な活動実績

新学年暦に関する説明会(約1,300人参加)と、1週間に渡る学外学修フェア(延べ230人参加)を12月開催した。1月には在学生向けの学外学修ポータルサイトの運用を開始し、メーリングリストの募集を開始した。3月には学外学修プログラム案内(A4判16頁)を発行し、次年度在学生の全学生に配付した。



学外学修活動支援に向けた準備 ～学外学修センターを中心とした支援体制の整備～

主にギャップターム期間を活用し、自律的に学外で学修する活動のためのサポート体制を検討・試行し、本格稼働に向けた準備を進めた。

2016年度の実績

- ・学外学修センターに特任教員2人を採用
- ・学外学修の評価軸となる「学外学修コンパス」を作成
- ・学外学修活動先の開拓
- ・パンフレット(学生向け・企業向け)の作成・配布
- ・試行プログラムの運用ならびに同プログラムを活用した科目「インデペンデントスタディ」の試験運用
- ・ポータルサイト運用開始
- ・危機管理マニュアルの見直し

2017年度以降の計画

- ・全学的な学外学修支援および科目運用の開始
- ・センター紹介プログラムの運用開始
- ・紹介プログラムの検討ならびに見直し
- ・ポータルサイトの充実
- ・学修支援システムの改修
- ・危機管理シミュレーションの実施および危機管理マニュアルの更新

学外学修センターによるサポート (Off-Campus Learning Center)

learning support

事前・事後指導、学修支援システムの開発、単位認定、実施サポート、安全サポート

activity incubator

学生、教員、企業等のアイデアを適切な学外学修活動として孵化させる仕組み

activity portal

学外学修活動に関するワンストップサービスWebサイト

activity library

多様な学外学修活動の記録を蓄積・共有

publicity

学生への周知一般への周知

opportunities intersection

学外学修を行いたい学生、受け入れたい外部組織が出会う場

supporters network

学外サポーターとの連絡協議会受入先の安定確保・品質管理と新規獲得

<取り組みに対する内部評価>

実施日：2017年3月

実施方法：事業実施報告書を事前に配付し、同資料に基づく評価・改善点の報告を書面にて受領

評価者：学長補佐（学生・広報担当）、学生委員長、教務委員長、国際センター長

評価概要：各種プログラムの開拓、危機管理体制の整備、専用ポータルサイトの作成、学外学修フェアの実施、学生組織の設置などについて、2017年度から本格稼働に向け順調に準備が進められている点で多くの評価を得た。また、学生向けパンフレットにおいては、具体的なサマースクールの情報が広く紹介されている点が、学生への周知が十分になされていると評価を得た。

一方、2017年度に新しい学年暦が開始されるが、混乱なく機能するか、学外学修センターを使用する学生のみならず、それ以外の学生の理解度や状況を注視していくこと。また、大学全体として調整・実施していくこととして、①経済支援に関して、学生（家庭）の負担軽減のため新たな枠組みをつくっていくことが必要、②危機管理に関して、実施状況や他大学の事例を参考にマニュアルの改定、シミュレーションや講習会を実施していくことが重要であるとの意見が挙げられた。

<取り組みに対する外部評価>

実施日：2017年3月30日（木）

実施方法：事業実施報告書を事前に配付し、同資料に基づく質疑・応答

評価者：他のAPテーマIV採択校

評価概要：取組内容について、①「インデペンデントスタディ」、「インターンシップ」、「サービスマーケティング」と多様な科目設計により学生の関心に対応している点、②学外学修先確保に向けての広報媒体（パンフレット等）の作成・配布により、積極的に関係機関との連携・協力関係構築に向けた取り組みが展開されている点、以上2点に関して多くの評価を得た。また、学外学修の成果を包括的に評価する指標のため独自の「学外学修コンパス」を設定したことに関しては高評価を得た。一方、2017年度の運用開始に向けて、学外学修プログラム各科目の教育内容について、大学がどのように責任を持つのか、教員がどうかかわるのが見えにくいとの指摘が寄せられた。また、学外学修先との関係構築の次の段階として、全学的な視点での関係維持の仕組みをどのようにマネジメントしていくかが事業の継続性の観点で重要であるとのご意見があった。

これら評価の結果をふまえ、2017年度は以下の活動を実施し、改善に努めることとなった。

- （1） 学生がギャップタームをどのように活用したか、どのようなプログラムに参加する学生が多かったか、学外学修を実施しなかった学生の動向などをアンケート調査等により客観的に把握し、その結果をもとに参加可能なプログラムの紹介や学外学修先との連携を強化するとともに、第2タームに提供する科目のあり方を再度検討する。
- （2） 現在の危機管理マニュアルを、シミュレーションを通して再確認し、刷新を行う。同時に、活動中の学生の安全管理の体系化を進める。
- （3） これまで以上に全学的な理解につなげるべく、学内広報を強化する。

以上